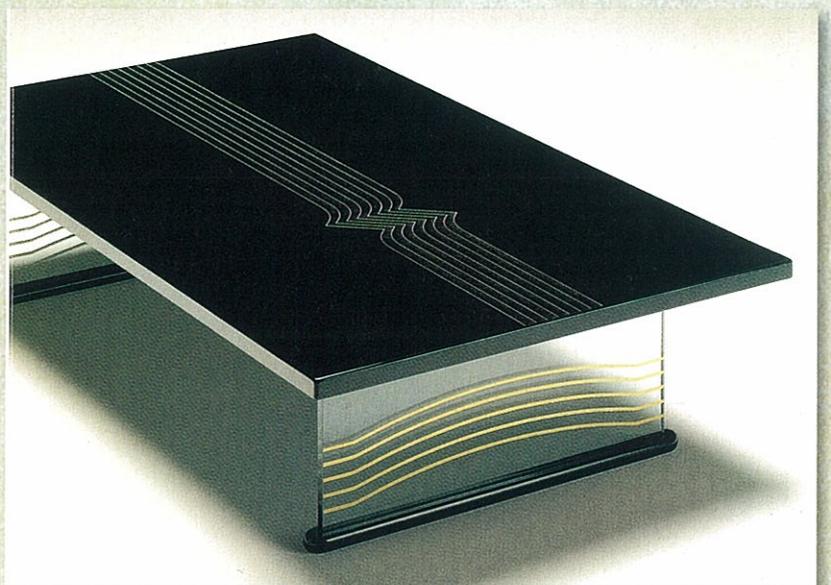
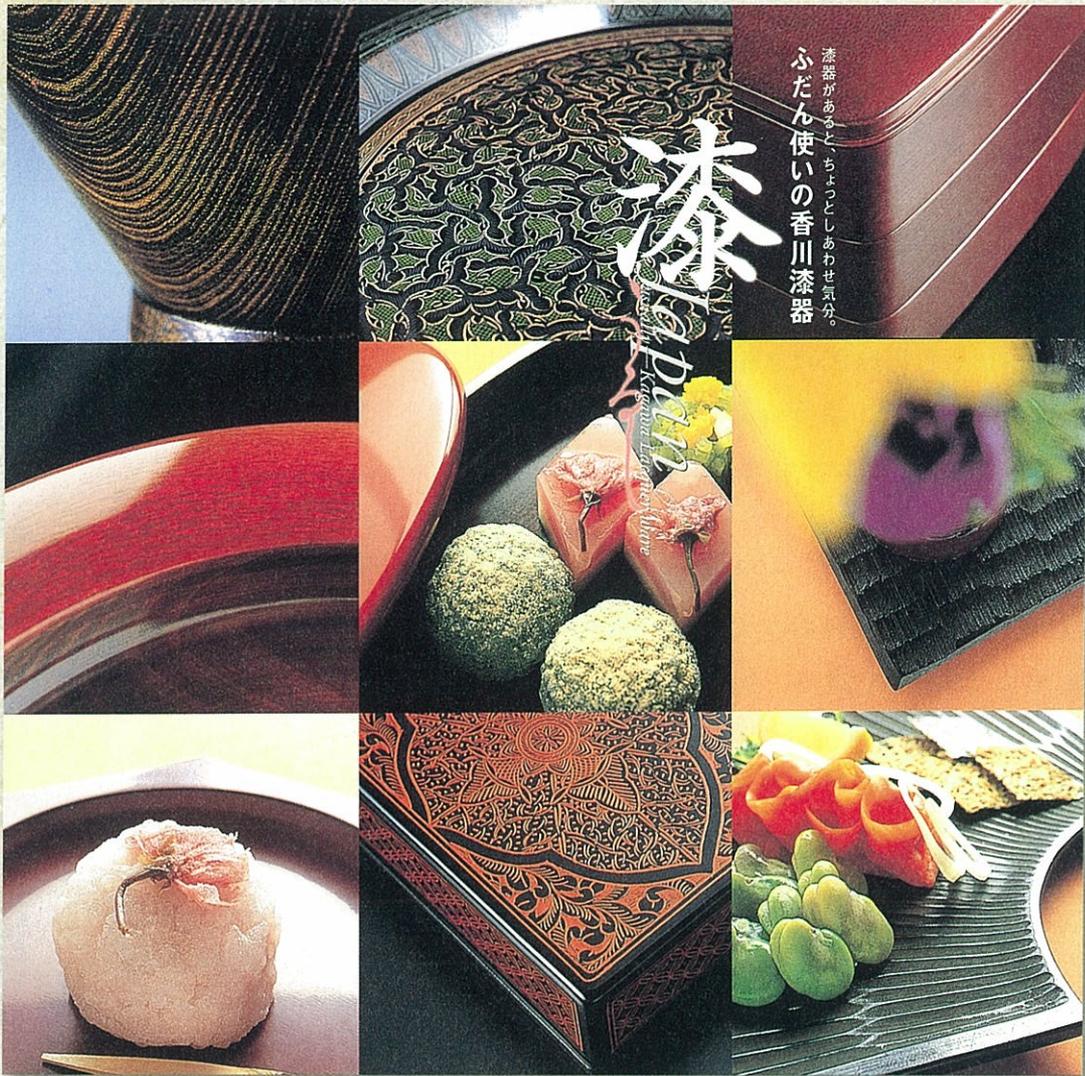
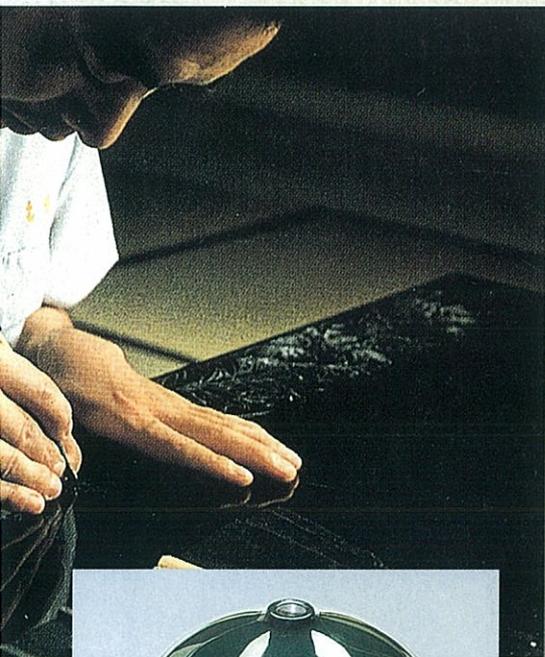


でんとう わざ かがわしつき

2 伝統の技がさえる香川漆器





● 漆芸王国さぬき ●

さぬきの国（香川県）を代表する伝統的工芸品といえは「香川漆器」。磨きに磨き上げられた技に支えられ、身近な日用品から美術品、高級家具にいたるまで、さまざまな製品が生み出されています。

江戸時代、高松藩主（高松藩のお殿さま）が漆器を奨励したのが始まりで、その後、香川漆器の祖といわれる玉楮象谷が中国のうるし技術を取り入れていくつかの技法を開発し、今日の基礎を築きました。

その技法は、現在まで受け継がれ、高松を中心に座卓や盆、菓子器、茶たくななどが生産されています。その種類の多さは日本一で、座卓は、全国の生産高の75%も生産されています。北海道から沖縄にまで販売がされており、「漆芸王国さぬき」と言われることもあります。

